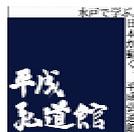


水戸未来ビジョン

まなぶ あそぶ つながる

ミト、コトはじめ。

生きる質をトコトン追求するまちへ



社団法人水戸青年会議所 JCI

知的でアートなスローソサエティ。

人間らしく、自分らしく、
生きる質を追求する水戸生活。

1 . はじめに

私たち社団法人水戸青年会議所（JC）は、「明るい豊かな社会」の実現を目指す20歳から40歳までの青年が集い、地域に根ざして活動する団体です。私たちの全ての活動の原点は、地域に対するこだわりと愛情にあります。そしてその思いは53年もの間絶えることなく今日まで受け継がれています。

20世紀社会における大量生産大量消費の経済活動を重視した結果、地球温暖化をはじめとした環境破壊が進み、地球全体の生態系が音をたてて崩れようとしており、社会の危機、環境の危機は次世代に大きな課題を残そうとしています。環境や社会の倫理観を無視し利便性のみを追求した現代から脱却し、次代につながる持続可能な社会を創出しなければ国の存亡の危機となります。そういう危機に直面している今こそ、これまでの成功やその他様々な価値の定義やライフスタイルの変革が必要です。地域市民の価値観が変わればまちはガラッと変わるのではないのでしょうか。

世界を考える事、国を考える事、地域を考える事は別々ではなく、地域のアイデンティティを確立するということは結果的に国や世界のアイデンティティ確立につながります。つまり、多様なつながりに生かされている現代の地域社会は、生活環境を含めて地域、国、世界のことを踏まえ考えていく必要があります。国、世界の模範となるような地域を創ることが大事ではないのでしょうか。地域主権とは地方分権という意味ではなく、地域のアイデンティティを確立するために商・官・学・民が手を携えて一つの方向に向かい進んでいくことにより達成されるものであると思います。かつて水戸には水戸学があり日本各地から有識者が学びにきました。その結果、水戸のアイデンティティが明治維新の魁となり、日本を大きく動かしたのです。地域のアイデンティティこそが、国をそして世界を動かすと信じています。

現在、水戸同様全国各地でも様々な問題を抱えています。しかし水戸には有形無形の素晴らしい財産があります。水戸学・弘道館などの歴史的資産、世界中から高い評価を受けている水戸芸術館、ニューヨークセントラルパークに次ぐ世界第2位の規模を誇る都市型公園である千波湖大規模公園などです。水戸のまちの潜在能力を引き出し、可能性を再認識することにより、水戸の未来は形成されると考えます。そして、その中心は「人」です。水戸に住む、あるいは水戸出身であることに誇りを持ち、水戸にかかわることにステイタスを感じる水戸的ライフスタイルの構築がその目指すものです。

水戸未来ビジョンはJCだけではなく地域に住む人、地域で働く人、地域で学ぶ人など多くの方々の意見を収集し作成しました。なぜならJC（一つの団体）だけでは明るい豊かな地域にすることは不可能だからです。そしてそのビジョンを実現するためにも、民間企業・行政・各種団体・市民の皆様と共に行動していくことが必要です。

ビジョンは壮大です。理想です。夢です。しかし地域の民間企業・行政・各種団体・市民が一体となり同じ方向を目指せば実現可能であると信じています。必要なことは望むことです。ひとりでも多くの人が望むことです。私利私欲に陥らず公の心を携えて実現していくことを強く望み、言い続けることやり続けることです。このような想いのもと、我々はここにビジョンを発信します。

2. 水戸未来ビジョンの特性

これからの価値の枠組み

経済が右肩上がりであった過去において、公共事業による大規模開発はまさにまちづくりの核でした。物質的豊かさを前提とした価値観は、高度経済成長を支えた日本の活力の基礎でしたが、物に満たされ飽和状態を超過している現代において同様の活力を望むことはもはや困難です。新しい価値観を確立すべき時代が来ているのです。

今、まさに時代が極まって、新しい価値の枠組みが求められています。それは困難が頂点に達した時に自然に生み出されるものなのかもしれません。その基礎になるであろういくつかの考え方が生まれ始めています。それは、スローソサエティという新たな社会像、そしてLOHASというライフスタイルです。

「スロー」とは、「ファスト」の反対語ではありません。もともと私たちは、自然の息づかいを感じながら、自然とのつながり、人とのつながり、そしてそれらと共生するための知恵を持って過ごしていました。自然や人と共生し、調和をとるための基準となる新しい「つながり」を持たなければなりません。そのキーワードが「スロー」なのです。自然、地域、人がつながることで、地域コミュニティの再生、地球の重み、守るべきものが今まで以上に理解できます。大切なのは、つながりを忘れないこと、失わないことなのです。スローソサエティは、大切なものを失いかけている現代社会システムをつむぎ直し、本当の豊かさが次世代に渡って持続する社会を目指しています。それは、「懐かしい未来」と言えるかもしれません。お金や物質的豊かさ以外の価値観を持ち、多様なつながりを実感しながら生活することで人とまちは豊かになります。スローな価値観によって築かれるスローソサエティとは、多様な価値観と多様なつながりによって、本質を見つめることのできるこれからの社会なのです。

LOHAS～ロハス(Lifestyles Of Health And Sustainability)の略であり、地球環境保護と健康な生活を優先するライフスタイルのことです。それは決して現在の消費経済を否定しているわけではなく、それを柔らかに肯定しながら、自分たちの幸せの追求が、社会の幸せや地球環境への貢献に無理なく自然につながっていくように暮らしていこうとする考え方です。欧米では、こうした分野で既に経済的な成功を収めている事例も多くあって、そのライフスタイルは流行の先端でもあります。個人のできることはわずかですが、それが大きな潮流になれば、そのパワーは世界をサステナブル(持続可能)に変える一助となります。人々は心地よい生活と、こだわりの贅沢を楽しみながら生きている、その結果、環境と社会がより良くなるのであれば、無理なく受け入れることができるはず。これは、人間の善の心の肯定であり、すべての自然の中に神を見つけた神道精神や、全ての人の心の中に良い心(仏性)を見つけた仏教精神に通じるものであり、日本人としてとても素直に理解できるものです。

「スローソサエティ」というこれからの社会と「LOHAS」というライフスタイルを軸に生活というものを再定義し、それを後押しし支援する社会の実現のために、地域の資源をどう再構成していくかが、水戸未来ビジョンを裏付ける価値の枠組みになります。

理念

水戸のまちの潜在能力を引き出し、可能性を再認識する
歴史から学び、新しい価値を見出す
新しい価値を具現化し、次代へつながる持続可能な共創共生社会を目指す
そして実践を通し、明るい豊かな社会の実現に貢献する

指針

「知的でアートなスローソサエティ。」

知的とは、生活する上での知恵や創造力を持つこと。
アートとは、創造力や感性を豊かにし、自分の気持ちを表現すること。
スローソサエティとは、多様なつながりに生かされている社会のこと。
「知的でアートなスローソサエティ。」とは、画一的なものではなく、多様性の中にある「知を重んじ、豊かな感性を育み、創造性あふれる持続可能な共創共生社会」です。

「人間らしく、自分らしく、生きる質を追求する水戸生活。」

「知的でアートなスローソサエティ。」の中で、人間らしく自分らしく生活すること。
すなわち、人が生きる質を追求すること。
それが「水戸生活」です。

人が変わらなければ、まちも変わりません。まずは、自らが変わること、それがまちから世界を変える第一歩です。

できることから始めよう。合言葉は「ミト、コトはじめ。」

スローガン

「まなぶ あそぶ つながる」

私たちの考える水戸のまちづくりは、知的、アート、スローという三つの軸を基本にしています。
「知的でアートなスローソサエティ」をはじめするために、「まなぶ あそぶ つながる」という日常的な言葉をスローガンとしました。これらは、私たちが「水戸生活」を実現するために続けていかななくてはならないことを、とても判りやすく表現しています。
「水戸生活」を実践できる社会の仕組みづくり、それを実現するための取り組みが「まなぶ あそぶ つながる」です。人はこれを繰り返すことで、更なるかがやきを放ちます。

私たち水戸JCは、このビジョンを単なる理想・夢に終わらせることなく、実現に向けて行動すること宣言します。

3. 未来ビジョンのイメージ



*まちの中心は人。人を中心に「まなぶ」「あそぶ」「つながる」の環が交わり、循環し、進化し続け、「生きる質を追求する水戸生活」が世界へ広がる。

4．リーディングプラン

リーディングプランは、すべて前段の理念に基づいています。先人たちの知恵を継承し、多くの方の意見を参考にして築き上げました。そして、時間の経過によって風化しないものだけを残しました。

ここには、私達の理想とする水戸生活を実現するために必要な、地域の様々な仕組みとかたちの骨子がまとめられています。すべては、一人ひとりが「人間らしく自分らしく生きる」ために考案されています。社団法人水戸青年会議所は、この提案を市民と共有し、共に行動を起こす起爆剤にしたいと考えています。

本プランは、「まなぶ」「あそぶ」「つながる」ことがいかに社会的仕組みによって可能になるのか、どうしたら一人ひとりが「かがやく」ことができるのか、それを実現する「まちのかたち」とは何か、をそれぞれまとめました。

1．まちでまなぶ

「人間らしく自分らしく生きる」ためには、人間としての基本的な徳性を学ばなくてはなりません。教養を高め、人物と出会い、思索を深め、自分自身の本質に気づくための教育とは何かを追求しました。水戸のまちで学び、水戸の「知」を全国へ発信します。

2．まちであそぶ

「知的でアートなスローソサエティ」は、好奇心に溢れ、情熱的にものごとに取り組み、自ら創りだすことのできる、遊び心を持った個人によって実現されます。多様な人の感性が、豊かな社会の実現を促す、そのための仕組みを探りました。

3．まちでつながる

私たちは、自然の恵みや世界の平和など様々ななかかわりの中で、相対的なものとして存在している事を認識しなければなりません。それを意識しながら持続可能な社会の形成を目指し、人と自然、あるいは地域と世界といったそれぞれのつながりを強めるため社会の仕組みを考えました。

4．まちでかがやく

一人ひとりがかがやくことは、まちがかがやくことです。一人ひとりのかがやきは、人の個性やこだわりにより光があたり、お互いが認め合うことによりもたらされます。一人ひとりの夢がまちの夢となり、より強くかがやくための仕組みを提案します。

5．まちのかたち

水戸のまちの魅力を最大限活かすために、既成概念にとらわれず、まちのかたちを描きました。それにともない、必要なインフラ等の整備や、まちの効果的なPRの手法について提案します。

リーディングプラン目次

1	まちでまなぶ	平成弘道館	弘道館大学の設立
			教育プログラムの作成と提供
		次世代教育	奨学金制度
			地域教育システムの構築
2	まちであそぶ	水戸モダンアート 都市宣言	水戸国際芸術祭
			アーティスト イン レジデンス
			水戸芸術館付属芸術大学院大学
		千波湖大規模公園 有効利用	千波湖南岸エリア
			あそび心のある交通ネットワークの確立
		水都構想	那珂川環境整備と水上ネットワーク
自転車シティ構想			
3	まちでつながる	水戸の恵み	水戸スローフードアワード
			企業経営型農業と雇用の創出
			食育教育
		国際交流	国際アカデミー
世界平和への貢献			
4	まちでかがやく	インキュベーション シティ	空きテナントの有効活用
			インキュベーションマネージャーの設置
		アセスメント	
		認証制度	
MITOアワード			
5	まちのかたち	広域合併と 産業基盤形成	市町村合併と50万人都市
			産業基盤づくり
			ミトPRについて
		現状での市街地再開発	千波湖北岸エリアへの大型施設（コンベンション施設等）の建設
			北口公園化計画

4 - 1 【まちでまなぶ】

幕末から明治維新にかけて日本を動かした「水戸学」を中心に、礼儀・道徳・歴史観・世界観を養う人間教育、地域の伝統の伝承、地域の人材を登用した実践教育等を学べる場として弘道館大学を設立します。広く国内外から志ある人々を募り、様々な分野で活躍できる人材を育成します。奨学金制度を導入し、水戸の若者が地域に貢献する事業に対して支援する仕組みを創出します。また、未来を担う次世代に対しても、地域独自の一貫した教育施策の構築をします。

4 - 1 - 「平成弘道館」

平成弘道館 <水戸で学ぶ。日本が動く。>

弘道とは

人は道を弘める能力をもっている。道が自然に弘まるのではない。道を弘める能力を持ち、道を弘める責任のあるのは、人にほかならない。

学問とは

人の道を学ぶこと、学びとは、人の人たる道を知ること。

地域独自の教育プログラム

「社会のために、強い信念と独自の発想で、私心を捨て公の心を持って変革と創造に挑む」
つまり「人の道」を求め実践し弘めるための学校、それが平成弘道館です。

「ちぎょうごういつ知行合一（知識と行動を一致させること。）」

「しょうおうこうらい彰往考来（歴史から真実を学び実学を重んじ未来を拓く。）」

「げい あそ藝に遊ぶ（藝は人として生きるために大切な学問のこと、遊ぶは自由な精神の意味。些事に執着せず、悠々として、本当に大切なことだけを見つめつつける。）

人が公の心を携えて正しく生きていくための教育は、いつの時代も大切です。

技術や知識の習得以前に必要な教育があります。それは、戦後の学校教育が十分に果たせなかった、生きることの本質的要素、つまり信念、志、好奇心、情熱的意欲を引きだし、それを言語化し、伝達し、人に夢を与え続けることです。

平成弘道館は、主体性を持った人材の育成、公と個の理想が調和されるような学び舎です。

弘道館大学の設立

弘道館大学は全人教育を目的とし、地域の人材のみならず、大学の趣旨に賛同する様々な講師陣が教壇に立ち講義を行うほか、個々の興味や関心、問題意識に基づいて実践教育を徹底的に行います。また、各界における即応的な能力開発プログラムを設け、社会に新しい価値をもたらす人材育成を行います。そして、弘道館大学での学びのエッセンスを抽出し、思想哲学、ビジネス、環境教育、人間学等の教育プログラムを開発して提供し、水戸で学んだ人材を通して世界に貢献します。弘道館大学は、感性と理性を刺激し、気づきを与える本物の集う学び舎です。

教育プログラムの作成と提供

弘道館大学は、まち中にある既存施設などを有効に活用してキャンパスを形成します。それは、民間によって運営され、多くの市民や知識人等が直接そのカリキュラムの作成や授業の内容構成に携わり、毎年教育方針を確認、議論しながらプログラムを実施します。つまり、「今、教育に何が必要か」を、地域の人が真剣に議論しあい、タイムリーに授業の構成に反映させていくことが可能になります。この研修プログラム作成を通じて、運営に参加する人々にとっても重要な学びの場になります。また、専任講師の育成と認定を行い、そのために必要なセミナーハウスを設置し、全国から研修者や団体を積極的に受け入れます。

奨学金制度

地域の未来を担う若者を育てることは、そのまちを形成する上でとても重要です。若者は世の中に対し常に興味を抱き、何らかの行動を起こしたいと考えています。しかし、行動を起こしたいと考えていても、資金がない、もしくは足りなくて実現できないのが現状です。そこで商・官・学・民が連携をして、地域全体で奨学金の資本を基金として募り、若者が地域のためにやりたいことを支援します。これらは、地域独自の人材育成「平成弘道館」のプログラムにおいて実践体験版とし、地域社会に貢献することを目的とします。

4 - 1 - 「次世代教育」

地方の時代といわれて久しい今日、その中身はいったい何かということについて明らかにされていないのが現状です。地域間競争における大きな要素は、人材であるということは言うまでもありません。中央発の教育プログラムに頼るのではなく、「ひとづくり」の視点に立った地域独自の教育の確立とその質の向上が求められています。

地域独自の教育は、地域のアイデンティティにより育まれ、地域と次世代を担う人材をつなぐ命綱の役割を果たします。

地域教育システムの構築

新しい教育理念を掲げ、それに基づき個性と調和のとれたなかで選択可能な教育を実現します。近年、教育バウチャーという、利用者の教育選択権が確保でき競争によってサービスも良くなる仕組みが注目されています。それを導入するためには特区制度の活用が必要です。さらに、公的教育機関において、水戸のまちを意識した歴史教育や郷土教育の更なる充実を図るほか、民間の塾やスポーツクラブ、青少年団体等と連携をして地域全体の教育システムを構築します。

徳育教育

現代の子供は、自然体験、生活体験などの成長を支える体験が不足し、人やものとかかわる力が低下しています。人とのふれあいが多き子供ほど、地域への関心や日常生活の充足感が高い傾向が見られます。そのために地域では、子供がのびのびと遊べる環境、親子で参加できる機会、様々な人々との多様な交流活動などの創出が必要です。我々は、地域ぐるみで子供を育てるという意識を高めていかなければなりません。

自然体験が豊富な子供ほど、道徳観や正義感が身についているという文部科学省の調査による結果も出ており、子供の「生きる力」を育むためには豊かな体験、すなわち徳育教育が不可欠です。

「ちびっ子広場」や「ちびっ子平成弘道館」をはじめとする運動等を更に拡大させ、子供の健全育成に寄与できる機能を持ったまちを目指します。

4 - 2 【まちであそぶ】

水戸には、文化芸術活動に親しみ、新しいコンテンツを発信するインフラがあり、それらを支える人材とネットワークがあります。ニューヨークセントラルパークに次ぐ世界第2位の規模を誇る都市型公園である千波湖大規模公園と豊富な水辺環境、水戸芸術館という類まれなる芸術装置を有する、知的でアートなエネルギーを持つ美しい水の都です。千波湖大規模公園を軸に、まちを回遊できる仕組を創出することで、まちの魅力を引き出し、人が楽しめる心地良い「あそび」を提案します。

4 - 2 - 「水戸モダンアート都市宣言」

モダンアートは現代の芸術です。現代の芸術の果す役割は、新しい美、新しい驚き、新しい価値の創造です。それは、疲弊した文化、経済システムに風穴を開け、生きる喜び、生きる意味を創出し、より素晴らしい世界を創るためのインスピレーションを与えつづけ、新しいライフスタイルを生み出します。

アートは特定の芸術愛好家のためのものでも、大事に美術館でコレクションされるものでもありません。日々の生活を豊かに、美しく、生き生きと過ごしていきたいと想うあらゆる人々のものです。

水戸は、モダンアート都市としての土壌と環境が揃っています。その中心は、アートの遺伝子を発信し続けるアートタワーが凜とそびえ立つ水戸芸術館です。水戸においてモダンアートは、価値の創造を繰り返し新たな活力を人々に与えます。

モダンアートによって生活を変えよう。水戸から新しい価値を発信しよう。そして世界に水戸の名を轟かせよう。この大好きな水戸に、この国に輝かしい未来を創りだそう。そして新しい希望を・・・

水戸国際芸術祭

地域独自のアートプロジェクトとして、水戸で国際芸術祭を定期的に行います。

まちのあらゆる場所、具体的には、店舗、公園、美術館、史跡、ロードサイドや広場などに設置されるアートは、人々に新しいコミュニケーションと多様な価値観を与え、まちに新しい回遊性を生み出し、新しい市場と新しい資源、人材をもたらします。これまで気づかなかったまちの様々な風景が、異なる文化とふれあうことで、違う価値を帯びます。それはアーティストがその作品の中でとり上げた何気ない風景が、観光資源として新たな価値を持つと同じような効果であり、まちに多くの伝説や物語が生まれることは、まちの魅力を高めることにつながります。

このアートプロジェクトの大枠は、世界中のアーティストが新しい作品を出品し、その価値を認めあい評価されるイベントであり、水戸から新しいアートの潮流を生み出します。その目的は、それを実現するプロセスを人々が共有することでもたらす教育効果とコミュニケーションの場です。

国際芸術祭の実現という共通目的に向けて、関係する人々や組織がそれぞれのベクトルを合わせ、

更なる新しい関係を築き、情報と知恵を交換し共有しあうことによって生まれるつながりは様々な効果をうみだします。また、人々がモダンアートにふれ、生活や文化活動、産業にとりいれていくことは、地域の新しいアイデンティティを育み、豊かさの概念を広げ、生活者に夢と希望を、若者に感性教育の機会を与えることにつながります。そこから生み出される情報やアイデアは普遍であり経済的付加価値をもち、様々な分野に影響を与え、地域社会の発展に貢献します。世界からもたらされる多様な美の基準、インスパイアされるあらゆること・ものは、すべて水戸の新しい魅力となり吸引力となります。世界中から集まる新進気鋭のアーティスト、ジャーナリスト、愛好家、バイヤーなどが、まちのムードを変え、最高の観光資源となって、新しいビジネスと文化を生み出していきます。

アーティスト イン レジデンス

アーティスト イン レジデンスとは、アーティストがある場所に一定期間滞在して、作品を試行、製作する事業です。アーティストが、自分の普段生活する場所から離れたからこそ見えてくるものを自分の作品に取り入れていくことが目的です。豊かな自然環境と現代のアートの至宝である水戸芸術館を有する水戸で、国際芸術際を見据え、いつでも気軽にアーティストを受入れるという体制を整えます。

アーティストが自由に使用できる滞在型の環境を提供するといっても、何も新しい建物を造るというわけではありません。アトリエとしての最低限の設備が整っていれば十分なので、中心市街地の空きテナントなどを活用したり、職業訓練校跡地等の再整備計画とも関連するようなかたちも視野に入れて環境造りを進めていきます。作品によっては、市民が製作作業の場に参加出来、それによりアーティストと地域社会との新たなコミュニティが生まれ、まちでまなび、まちであそび、まちでつながります。

水戸芸術館附属芸術大学院大学

水戸芸術館で開催実績のある音楽、演劇、美術の各トップアーティストと水戸芸術館の学芸員で講師陣を構成します。そして、世界中から学生を受け入れ、水戸で最先端の現代芸術を学び、修士号を取得します。卒業時には、公演または個展をまちの施設で開催し、最も優れた学生にのみ水戸芸術館での公演・個展を許可します。学生の作品に対する評価は、地域の人が投票して決定し、そうすることでよりアートに親しむことができるようにします。また、学生の優れた作品の物販を可能とし、運営資金の一部にします。地域がよりアートで「あそび」ための洗練された大学院大学という場を設置します。

4 - 2 - 「千波湖大規模公園有効利用」

水戸市民の憩いの場である千波湖大規模公園は、初めて水戸を訪れる観光客にも「都市の中心に湖があるなんて」という感激を与える、偕楽園を含むもっともシンボリックなエリアです。しかし、公園であるが故の様々な規制等によって、観光資源としての効果的な活用に乏しいのが現状です。より有効に活用するために、ウラミトを含む中心市街地や、歴史的財産との歩行導線確立、周辺水辺環境の整備等、一体的な開発が求められます。これらの実現によって旧来の中心市街地と水戸駅南区域が結びつき、新たな市街地を形成します。

千波湖南岸エリア

千波湖南岸エリア（旧市民研修センター・消防学校跡地および広場の一部）については風光明媚な景色を楽しめるショッピング・カフェゾーンとしてエリアわけをし、民間開発を促進します。開発にあたっては、低層建築で景観に十分配慮したものとします。また、出店店舗もミックステナント等の手法を導入し、カフェ、ギャラリーなどこだわりのあるものとするほか、LOHAS 的要素を取り入れたかたちでの、ココロとカラダが優しい時間を過ごすことのできるスポーツジムやヨガ、マッサージ、アロマテラピー等、癒しの空間を併設することにより、水戸の新たな「あそびの場」をつくりだします。

千波湖周回道路の土日祝日における車両乗り入れの規制と、物販・飲食店等の出店に関する規制緩和をすることにより、大道芸、絵描きなどのアーティストやオープンカフェ、屋外コンサート、蚤の市、水上マーケットなど賑わいを創出します。

あそび心のある交通ネットワークの確立

JR 偕楽園駅を、偕楽園、徳川博物館、常磐神社、護国神社から、ロマンチックゾーン、さらに、弘道館等の歴史遺産や水戸芸術館方面への玄関口として位置づけ、歴史、文化、ファッション等各観光ルートを策定することで点と点ではなく面と面のつながりをもたせます。

4 - 2 - 「水都構想」

水戸中心市街地区域は、太平洋、那珂川、涸沼、涸沼川、千波湖、桜川、逆川、沢渡川など豊富な水辺環境に恵まれた水の都です。千波湖から四季の原、千波湖から逆川緑地（笠原水源）、千波湖から桜川水源地を自然環境ゾーンに指定し、ビオトープなどの手法を用いて、都市の中にありながらトンボや蛍が飛ぶ、子供たちが水辺でジャブジャブ遊ぶことが出来、自然から学ぶことの出来る場所として活用します。

水に遊び、水に学ぶことはまさに水戸のライフスタイルであり、次世代への持続可能な社会づくりの視点からも「水都」の確立は重要です。

那珂川環境整備と水上ネットワーク

那珂川はカヌーなどのウォータースポーツに適した環境であることから、旧職業訓練学校や青柳運動公園を再整備し、各種スポーツ施設やキャンプ場等を設置します。また、那珂川水浴場の整備を行い、水戸の古式泳法（水府流）等の伝承もこの地で行われるようにします。

大洗海岸につながる那珂川環境整備は、水の都としての水戸のイメージを内外に強くアピール出来る重要な施策の一つです。

(イメージ) 大洗マリポート・ヨットハーバー 那珂川 若宮基点 桜川 千波湖

自転車シティ構想

水の都としての水戸の交通のかたちとして、「自転車の似合うまち」を目指します。自転車が想起させるエコ、ヘルシーな感覚をまちづくりに取り入れ、ココロとカラダと地球に優しく、スローで生きる質を追求できるまちを形成します。そして、京都議定書を参考にするかたちで地球環境改善についての取り組みも進めていきます。

那珂川から桜川、千波湖へのサイクリングロードと中心市街地を連結することやヨーロッパ各都市で見られるような自転車のシェアリング（共同保有）をすすめ、いつでもどこでも誰でも自転車で都市空間を周遊できるシステムづくりやイベント等を実施します。

4 - 3 【まちでつながる】

自らが口にする食べものを見直し、人と語りあい、食事を楽しもうというスローフードの概念が定着しつつあります。伝承すべき郷土料理や質のよい食品を守ること、質のよい素材を生産する小生産者のサポート、子供たち、および消費者への啓蒙が大切です。「食」という視点からのつながりを意識し、地域コミュニティの在り方を示します。また、インフラ整備に伴う首都圏や世界との距離が近づくことを意識しながら、「つながる」をテーマとした国際交流施策の実現を目指します。

4 - 3 - 「水戸の恵み」

水戸のまちを全国に発信していくにあたり、「豊かな食」は外すことのできない重要な資源のひとつです。良質な農産物や水産資源を徹底的に追求しながら現状の PR 手法を検証し、より効果的なものとしてリニューアルします。

企業経営型農業の実現に向け、効果的な土地利用と、効率よく良質な農産物を生産する手法を検証し、誘致を積極的に行います。また、地域の若年層が農業に従事しやすくするための環境整備を行います。

滞在型農村体験を実施し、他の地域からの子供たち、家族連れや若者学生などのファームステイの受け入れを行うことにより大地の恵みを体感させます。

水戸スローフードアワード

スローフードとは、

消えつつある郷土料理や質の高い小生産の食品を守ること。

質の高い素材を提供してくれる小生産者を守っていくこと。

子供たちを含めた消費者全体に、味の教育を進めていくこと。

という活動指針を中心に掲げた活動のことです。

スローフードがめざすのは、時代の速度に束縛され、わたしたちが本来持っていた慣習を失わせ、ファストフードを食べることを強いる『ファストライフ』からの脱却です。また「ファストフードを口にしてはいけない」というのではなく、自らが口にする食べものを見直し、人と語りあい、食事を楽しもうというのが目的です。

現在、県で勤めている「うまいもんどころ」をさらに水戸地域に特化した「みとつぼ」認証制度として実施します。認定された食品に「みとつぼマーク」シール等を貼り、小規模生産ながらも地域の中で地元の材料を用いて生産している食品、生産者を認証し付加価値を高めることで価格競争に陥らないブランド構築により生産者を守っていく経済的な仕組みをつくります。そこで生産された食材は、LOHAS 的食生活を体験できる自然派レストラン&宿泊施設で楽しめるようにします。また、徳川光圀が研究をした薬膳文化や医食同源の思想を組み入れたものについても認証制度と連携した特徴づけを行い PR のひとつとして位置づけます。

企業経営型農業と雇用の創出

現行の農業政策の検証を行い、特区を視野に入れたかたちで、効果的な土地利用と、効率よく良質な農産物を生産する手法として企業経営農園の誘致を積極的に行います。また、働きやすい農業を実現することにより、地域の若年層が農業に従事しやすくするための労働環境整備を行うことで新たな地域雇用の創出を図ります。

食育教育

保育園、幼稚園、義務教育等のカリキュラムの中にスローフード授業をとり入れ、郷土料理の伝承等を行います。また、農業、漁業、酪農生産者、製造工場等見学や滞在型農村体験を通して自然から育まれるものの大切さ、食物連鎖からの命の大切さを身近に、真摯に学ぶ機会を設けます。幼少期における食育教育は、先に述べた徳育教育とあわせたかたちで「ちびっ子広場」や「ちびっ子平成弘道館」をはじめとする運動等で実践します。

4 - 3 - 「国際交流」

国際交流は、外国人を受入れるホスピタリティと、外国に出向して世界平和に貢献する2つの施策を提示します。外とのつながることは、その人の視野を広げることにもなりますし、また、水戸の人材を世界に発信することにもなります。多様性を認め合い、人としてお互いを尊重し、人と人の交流を活性化することで、まちに賑わいをもたらします。

国際アカデミー

国際アカデミーは、1987年アムステルダムで開催されたJCI(国際青年会議所)世界会議において公認プログラムとして承認されて以来、2000人以上ものグローバルネットワークを輩出してきました。日本JC主催の下、現在まで日本各地で18回開催され、その時々日本JCのテーマを取り入れながら、1)参加するメンバーの相互理解を深める 2)世界のメンバーの日本への理解を深める 3)トレーニングの機会を与え明日のグローバルリーダーを育てる 4)JCI全体の発展に寄与する 5)世界平和の確立に貢献する、という5つを目的としています。

国際アカデミーはJCの事業ですが、将来の各国のリーダー予備軍である80カ国以上のJCメンバーが来ることは世界に水戸を発信する機会となります。この参加者が、同時開催する国際芸術祭の開会式等の各種プログラムに各民族衣装を着ながら参加して頂ければ、インパクトは大変大きなものになります。

開催の最大の目的は、水戸国際芸術祭を実現するための手段であると位置付け、地域のエッセンスを取り入れた感性豊かな国際都市「水戸」の実現を目指します。

世界平和への貢献

世界平和を実現する方法は多種多様で即答えが出せるものではありませんが、これは普遍的なテーマであり決してさけて通ることはできません。地域間紛争は今なお世界各地で起きており、国防政策のひとつとして、徴兵制というシステムが、国を自分たちの力で守り愛国心を育てるということを主眼において各地でとりいれられていますが、果たしてそれは本当の世界平和につながるのでしょうか。争いの根本は人と人との関係から始まっています。争いをなくすためには人と人とのつながりを深め大切にすることが重要です。互いの価値観を認め合い、尊重しあうことこそその第一歩なのです。ここでは争いの抑止力として、ひとつの人的交流施策を提案します。

多様性を認めあう「まなび」の中で育った人材を、18歳から20歳までの一定期間世界各地に派遣するシステムを構築し、持続させます。世界の人々とふれあうことにより芽生えるつながりは争いの抑止力となります。例えるなら、尊敬する人のいるまち、親友のいる地域、愛する人のいる国を不幸に導こうとする人が果たしているのでしょうか。比較的若いときに実践させることにより、貴重な経験となり、以後の生活で世界平和を考えるときの判断基準のひとつとなるでしょう。こうした輪が広がることで、徐々にではありますが平和へとつながっていくのです。

4 - 4 【まちでかがやく】

人がかがやくためには、それぞれの資質を磨くことができ、それを発揮する場所が与えられ、それが評価されることが必要です。まちでまなび、まちであそび、まちでチャレンジする人々が美しくかがやくことで、まちは注目され、多くの人を訪れる場所になるはずです。

4 - 4 - 「インキュベーションシティ」

水戸は、かつて明治維新を実現する原動力となり、古くから「時代の魁」足りうる素地を持っています。

現在の中心市街地におけるテナント賃料の相場は東京のそれとほぼ変わらず、地域からチャンスを奪っています。その課題を克服し、全国から「店を出したい」「アーティストになりたい」などといった卵たちを受け入れ、育てるまちとなることができれば、「水戸に行けば最先端がある」といった新たな注目を得ることができます。「成功してからの行動は自由、そして新たな挑戦者を受け入れる」といった姿勢で、商売、アート等のチャレンジャーを応援し、「時代の孵化装置」としての役割を果たします。

空きテナントの有効活用

テナント賃料の高さは東京並みで、これでは新たな挑戦者にとって大きな壁となっています。一定程度の路面に面したテナントを一括で借り上げ、それを本格的なチャレンジショップとして活用することにより地域の活性化と挑戦の場を提供します。また、小売型ではない起業家についてもインキュベーターとしての施設を格安で提供できる仕組みを整えます。

インキュベーションマネージャーの設置

インキュベーションマネージャーを複数設置し、より実践的な創業支援や人と人をつなぐ役割を積極的に果たしながら事業の成功に向けてバックアップを行います。そして、まとまった形での効果的なパブリシティ制作やプロモーション活動がこの事業の大きな鍵を握っています。PR活動を展開し、成功モデルの輩出に努め、全国に向け「挑戦者求む。」といった宣伝を行い、新たなチャレンジをする人材を全国から集めることに努めます。

4 - 4 - 「知的でアートなスローソサエティを実現する景観条例（アセスメント）制定」

LOHAS 的価値観を軸に景観条例を制定し、都市形成を推進します。アセスメント景観条例制定地区における新規の建造物等については、それぞれがバラバラに存在しないよう素材、形状、環境に対する影響等を事前に検証し景観の保持に努めます。

4 - 4 - 「認証制度（水戸的優人。水戸的優物。水戸的マイスター。）」

生きる質を追求し、LOHAS の要素を取り入れた、水戸のまちにふさわしい商業店舗や技術・生産物・食品・料理メニュー等を、ブランドとして認証します。認証を受けたそれらに対して、商・官・学・民一体となり全国、全世界へ発信するプロモーション活動を実施します。

4 - 4 - 「MITO アワード」

水戸未来ビジョンの目指す3つのまちづくりの柱（まなぶ・あそぶ・つながる）と符合する全国、全世界の取り組みを、記念イベントのなかで毎年表彰し顕彰します。同時に「MITO アワード」のテーマに合った各種世界会議等の誘致をコンベンションホール、水戸芸術館等を中心として行います。

「MITO アワード」選考委員は商・官・学・民の中から選出し、水戸全体の総意となるようにします。

4 - 5 【まちのかたち】

4 - 5 - 「広域合併と産業基盤形成」

都市の魅力を高め大きな夢を描くためには、広域的なビジョンの策定が重要なテーマです。更なる市町村合併を見越して、水戸市域を中心に、ひたちなかエリア、笠間エリア、大洗エリア、那珂エリアを視野にいれた都市の将来像を描きます。

地方都市の活力づくりは、産業基盤形成に対する戦略的な姿勢が必要です。首都圏をマーケット対象として明確にし、常陸那珂港と北関東自動車道の完成、百里空港の民間共用化、JR 常磐線の高速化等を想定して、明るい豊かな社会に必要な人・物・金・情報の循環を促し、観光客の大幅増加や人口流入を誘引する施策を示す必要があります。

市町村合併と50万人都市

県都として都市の魅力を最大限に活かすために、ひたちなか、笠間、大洗、那珂、東海を対象エリアとした50万都市を目指す広域合併論には概ね賛成します。合併における優先順位は、行政の枠組ではなく、人の流れを含めた生活圏を考慮するべきです。そして、各市町村が持つポテンシャルを併せることで、人・物・金・情報が循環し、観光の魅力も倍増し始めます。合併にあたっては早期に全体像を示した後に、市民の意思を確認しながら個別の合併議論にあたるべきであると考えます。

産業基盤づくり 常陸那珂港・北関東自動車道・百里空港

インフラ整備については、それぞれバラバラに存在するのではなく一体的な整備が求められています。これらのインフラをどのように活用するかについて、商・官・学・民が連携し、実現化に向けての協議会を立ち上げる必要があると考えます。特にこのインフラ整備は水戸圏における新産業基盤の創出に密接にかかわるものです。各界の専門家をメンバーとした(仮称)水戸新産業創生戦略会議(産業創出タスクフォース)を設置し、早急に方向性を示す必要があります。

ミトPRについて

水戸が持つ、すべての要素を外部に発信するためには、明確なイメージを持つことが大切です。そして、世界的に認められる日本文化の代表都市となるためには、プロモーション、ブランディング、ヴィジュアルアイデンティの確立が必要です。

水戸市(茨城県)には、電波媒体といわれるメディアが不足しています。インターネットや携帯電話の普及により一部の若年層はその分野から情報を得る事はできても、すべての層に情報が伝わっていないのが現状です。

テレビメディアの確立、これこそが今の水戸にとって必要だと考えます。なぜなら、ミックスメディアといわれる手法でプロモーションをしたくても、中核といわれるテレビ媒体がなければその効果は薄れてしまうからです。作られた事を伝えるのではなく、真実を伝え、それを見た人が自分の感性で自由に受け止めることができるテレビ媒体を水戸からつくりだします。

4 - 5 - 「現状での市街地再開発」

歴史文化のシンボルである弘道館、現代芸術文化のシンボルである水戸芸術館、水戸の顔として洗練化されることが求められている千波湖エリアを中心とし、ソフト・ハードの両面からエントランスに相応しい環境整備が求められます。また、現在の水戸駅北口の景観は、日本全国の地方都市のそれと大差なく、インパクトに乏しいのが現状です。北口再開発から一定期間を経過した現在の駅前から、将来の駅前の姿について提案します。

千波湖北岸エリアへの大型施設（コンベンション施設等）の建設

千波湖北岸エリアは、JRの電車庫やアイススケート場跡地など水戸市屈指の好環境にもかかわらず有効に活用されていないと考えます。JR電車庫は現状が屋根無しの状態となっているため、この空間に屋根をかぶせるなどの手法を検討し、上部の有効利用を提案します。収容能力が高いコンベンション施設建設は、人の交流を活発にし、まちが賑わい、経済効果も得られ、水戸の新しいランドマークとなり、数千人規模の世界会議やイベント、物産展などの開催が実施可能です。また、水戸芸術館のアーカイブスを実現するスペースとし、劇場も内包させたものとします。

北口公園化計画

水戸駅北口のペDESTリアンデッキについては、完成以来水戸の顔として十分な役割を果たしてきましたが、水戸のまちが新しく様変わりをするにあたりその役目を終え撤去を行います。代わって、水戸駅北口には緑、花、水、空の風景、そして歴史的風格とアートの融合スポットとしての公園機能を持つ広場として整備を行います。人々が木陰で休み、若者や芸術家による音楽演奏や大道芸などが行われる憩いの広場とします。

参考資料

LOHAS ~ ロハス (Lifestyles Of Health And Sustainability)

LOHASとは、地球環境保護と健康的な生活を最優先し、人類と地球が共栄共存できる持続可能なライフスタイルと、それを望む人たちの総称です。

無理や我慢ばかりでは、健康も、エコロジーも、幸せも、長続きしません。自分たちの幸せの向こうに、社会の幸せや地球環境への貢献が地続きでつながっている、そんな実感のある暮らし、それを実現できる仕事を望む人たちにモノやサービスを提供する社会が、アメリカやヨーロッパで急激に広まっています。LOHASとは、健康からみた環境を考えることが格好いいと思う、こだわりをもって生きるライフスタイルのことです。今の自分の生活とのギャップがなく、万人に受入れられやすい、どんなきっかけからでも、今すぐ実践できるライフスタイルです。

LOHAS の6つのキーワード

「健康的な暮らし」

人の暮らしは「食べる」「動く」「考える」「眠る」といった活動の繰り返し。その循環が健康的であることがLOHASの基本です。まずは自分にとって快適な、健康的な暮らしの要素について、考えることから始めましょう。

「自然環境への配慮」

暮らしが健康的であると同時に、暮らしを取り巻く自然環境もまた健康であることが、LOHASの実現には不可欠です。暮らしを犠牲にするのではなく、日々無理なくできる自然環境への貢献とは何かを考え、実行してみましょう。

「五感を磨く」

LOHASの在り方は、人それぞれ。自分の判断で、自分にとって必要なもの、そうでないものを選択することが求められます。情報や数値による判断だけでなく、自分自身の感覚でほんものを見つけることがLOHASには不可欠です。

「古いものと新しいもの」

最先端の技術と、伝統的な知恵。新しい発想と、古くからの習慣。どちらかひとつではなく、新旧それぞれの良いところ、必要なものをバランスよく選びとること。それを自分の暮らしに取り込む方法を見つけましょう。

「つながりを意識する」

社会も環境も、自分の足元から地続きでつながっています。食べたものはどこから来たのか。捨てたゴミはどこへ行くのか。買ったり使ったりすると、地球にどんな影響を及ぼすのか。その先に何があるのかをイメージしましょう。

「持続可能な経済」

LOHASは都市生活や消費活動を否定しません。便利で楽しい、ハイセンスでカッコいい、そんなモノやサービスによって、人にも環境にもやさしい持続可能な経済システムをつくる。LOHASは経済から、社会の在り方を変えていきます。

語句説明

アイデンティティ	物がそれ自身に対し同じであって、一個の物として存在すること。帰属意識。
サステナブル	持続可能であるようす。維持が可能であること。
リーディングプラン	主導的・重点的に取り組むべき施策展開の考え方や方向性
パウチャー	サービスを受けるための引換券。クーポン、チケット。
モダンアート	近代美術。現代美術。主として抽象主義・超現実主義などの新傾向の美術作品。
インフラ	生産や生活の基盤を形成する構造物。ダム・道路・港湾・発電所・通信施設などの産業基盤、および学校・病院・公園などの社会福祉・環境施設がこれに該当する。社会的生産基盤。
コンテンツ	情報の内容。放送やネットワークで提供される動画・音声・テキストなどの情報の内容をいう。
インスパイアー	思想・感情を吹き込むこと。鼓吹。
シェアリングシステム	(シェアリング=共同保有) 個人の「ふりかえり」と、他者との「わかちあい」の要素が含まれます。
インキュベーション	抱卵。孵化。ベンチャー-ビジネスを軌道に乗せるまでの施設・機器・資金などの援助を行う組織(まち)。また、広く出資者をいう。
パブリシティ	企業・団体・官庁などが、その製品・事業などに関する情報を積極的にマス-コミに提供し、報道として伝達されるよう働きかける広報活動。
アーティストレジデンス	芸術家の住宅。邸宅。(元来レジデンスは、大邸宅や高級住宅の意。日本では集合住宅の名称などに用いられる)
産業創生タスクフォース	(機動部隊の意)企業活動などで、特別な目的のために編成されたチームプロジェクト-チーム
アーカイブス	大規模な記録や資料のコレクション。デジタル-データ化しての保存と世界的な相互利用が図られている。
ピオトープ	動物や植物が恒常的に生活できるように造成または復元された小規模な生息空間。公園の造成・河川の整備の計画などに取り入れられている。
ペDESTリアンデッキ	自動車道路と立体的に分離した歩行者専用通路。

5 . あとがき

「依存から自律へ、共創・共生するまちの魁として」

生きる質の追求は、多様なつながりに生かされていることを常に意識しながらも、他人に頼るのではなく自ら行うことが重要です。「知的でアートなスローソサエティ。」を実践することは、「新しい価値」を彩るまちへと変化するための基本姿勢であり、水戸に暮らす人の指針となることを願ってやみません。物質的、経済的豊かさは付録である、という考え方が当たり前になる時代が到来するでしょう。スローソサエティや LOHAS という概念は、「新しい価値」というより、既にあった「懐かしい価値」と言えるかもしれません。

水戸の偉人、徳川光圀公が生涯にわたり、人が生きていくことの本質を追求したように、その意思は、水戸の地に脈々と流れ、確実に受け継がれています。こうした土壌の根幹は、個人の持つ能力、可能性に対するかぎりない信頼で形成されています。水戸が、「新しい価値」のあるまち、誇りを持つまちになるためには、人が「まなぶ・あそぶ・つながる」を繰り返し続けることで、日本・世界から注目を浴び、かがやきを放ちます。それが、未来に求められる美しく眩いまでのまちのかたちであると考えます。

私が変わる、水戸で変わる、そして世界が変わる、その始まりは「人」です。人こそが世界を変える力を持っています。人が人らしく生きることが質の高い生活であり、それを追求できる社会の仕組みこそが、次の時代の社会のありようであると確信します。

私たちのビジョンは、水戸生活をより素晴らしいものにしていくことに焦点をあてています。ビジョンをかたちにする新たな挑戦は、困難で果てしない旅かもしれません。その道程は常に苦悩と創造の連続であり、歓喜との出逢いともなるでしょう。失意の瞬間が待っていようとも、それは成功への過程に過ぎません。

我々JC は、この愛する地域にかかわる全ての人々の目の輝きを渴望します。それを達成するまでは、常に進化をし続け、地域の人々と共に、地域による、地域のためのまちづくり運動を展開していきます。

2005年12月発行

発行者

社団法人水戸青年会議所

水戸市桜川2 - 2 - 35 (茨城県産業会館11F)

TEL 029-221-6384 FAX 029-221-9631

[URL] <http://www.mito-jc.or.jp> [E-mail] info@mito-jc.or.jp